



●男女共同参画の20年とわたし

講師 落合恵子さん
(作家・クレヨンハウス主宰)



落合さんは、1945年生まれ。くしくも日本の民主主義とともに生きてきたことになりました。自らの生い立ちが、差別、命、人権、そして男女共同参画の意識につながっていました。

私の母は、シングルマザーで私を育ててくれたのですが、差別される側にいる私に「同じ差別される側の

人とやわらかく手をつないで、世の中を差別のない方向へ歩いていってほしい。そうしたら、他に何も持っていないなくても、お母さんはあなたに五重丸をつける」と言ったことがあります。

差別のない社会に向かってそれぞれが歩むとき、何が必要なのでしょう。うか。そうして、主役は誰なのか。一人ひとりが「自分色に輝く」とはどういうことなのか、と一緒に考えていきましょう。そうすれば、私たちの社会は、新しいステージに向けて、再びの初めの一步を踏み出すことができます。その土台に、男女共同参画があるとも言えます。

私たちが社会におけるもっとも小さい声に耳を傾けることが可能になった時、社会は本当の意味で、成熟した社会になりうるものだと考えています。

一步が無理なら半歩ずつでも、どのような思想と姿勢を持てば、それぞれが力を出すことができるか。それはまず、私たち自身に問いかねなければならぬテーマです。

(講演の終盤にクレヨンハウスが以前作った「空より高く」の歌が会場に流されました。) 3・11(東日本大震災)の後に、岩手県の園児たちが歌ったこの歌を、岩手放送が流し、岩手の一部で震災の応援歌とな

りました。「人は空より高い心を持っている。君の心よ強くなれ、海よりも強くなれ」
私たちは震災を、そして福島を忘れない。

強さとは何か、本当の意味を考えていきましょう。人は弱く脆いものだと知らなかったら、本当の意味で強くはなれない。生きている限り、「命」なのです。命に、優劣をつけては決していけないのです。

アイレックは20年を迎えました。次の20年につなげられるよう命のバトンをつないでいきましょう。

会場をぎっしりと埋めた10〜90歳代の幅広い参加者の熱気に包まれる講演会となりました。落合さんは米国の作家メイ・サートンが大好きな闘う女性です。そして植物が大好きな心優しい女性です。講演が終わったとき、会場はあふれんばかりの拍手でいっぱいになりました。一人ひとりが、自分を大切に、自分色に輝かせたいという気持ちになつて、会場を後にしたのではないでしょう。か。(表紙の写真②)

(安井)



7Fロビー

●映画「毎日がアルツハイマー」と関口祐加監督トーク



関口祐加監督

アルツハイマー型認知症と診断された母親との日常生活を笑いとユーモアたっぷりに描いた映画。認知症の家族にどう向き合えばいいのか、考え方や暮らし方が心に残ります。

監督トークでは、
・家族の介護では、頑張りすぎない無理しない60点以下の介護することが大事。

・介護には様々なプランが必要である。一つのプランで上手いかわなかったときは、違ったプランを取り入れるなど機転と想像力で認知症の世界を本人と共有する。

・本人と外部支援者との信頼関係を見守ることも大切で、家族だけの関係にしない。

・認知症の介護で一番大事なのは本人の気持ちを最優先に考え行動し、何かを決めるときには、必ず意志を確認し尊重することが大切。

等、楽しくも力

強いお話しがありました。(表紙の

写真③⑦)(近藤)

